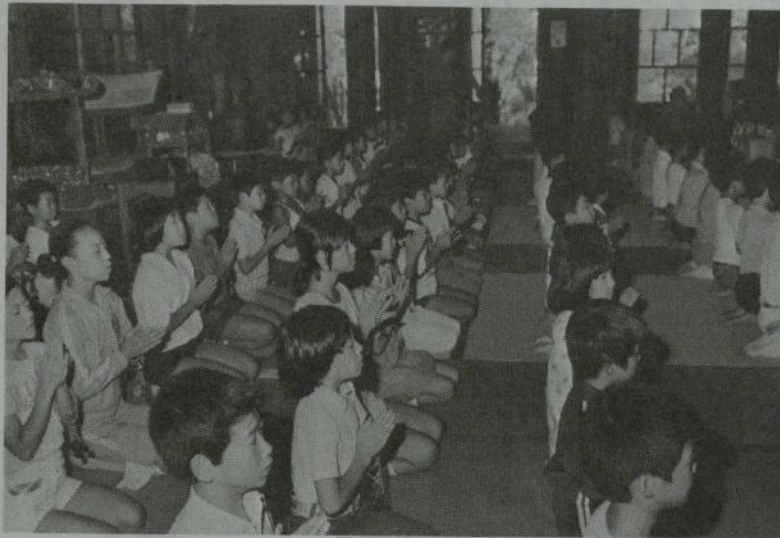


NO 251

全 日 本 仏 教

9 / 54



災 害

東名高速でまた、トレーラーや乗用車が追突、炎上事故を起したが、一ヶ月前に同じ東名高速の日本坂トンネルで大惨事があったばかりである。

今回の事故も車間距離を無視したスピードの出しすぎが原因とされているが、これでは日本坂事故の教訓などまったく反映されていないと同じである。ドライバー一人一人の自覚を促したい。

同じ災害でも、大正十二年の関東大震災は凄惨を極めた。また新潟や伊豆などの大地震もあり、災害はいつ起るかわからない。地震にしても教訓を生かし災禍を最小限に止める覚悟を新たにしたいものです。

人災にいたってはなおのこと、「喉もと過ぎれば云々」ではありません。人それぞれが、あらゆることからして猛反省しなくてはなりません。(彼岸をむかえるにあたって)

夏休みは全国でいろいろな講座や修行が行なわれる。
関係記事一四一五面

大法輪のもと、より大きくより強く

茨城大会来月ひらく

仏教徒会議 四部会にわかれ

な連絡をとりながら準備している。

茨城大会開催要項

日時 十月十五日(月) 九時半～四時半

会場 水戸市民会館

部会 第一部会(実践部会)―仏教徒の

社会的実践―

第二部会(檀信徒部会)―檀信徒

費用 参加費三千円

閉会式

日程 八時受付開始、九時半開会式、十時二十分記念講演、十一時二十分総会、一時部会、三時総会、四時閉会式

宗派代表者懇談会

第三部会(婦人部会)―仏教婦人の全国結集を計ろう―

第四部会(青年部会)―仏教青年の全国結集を計ろう―

の全国結集を強化しよう

青年部会 呼びかけ

仏教青年の全国結集

第二十六回全日本仏教徒会議茨城大会は、全日本仏教会と茨城県仏教会の共催により、十月十五日、水戸市民会館にて別掲の趣意のもと、「大法輪のもと、より大きくより強く」という大会スローガンを掲げて開催する。全仏では組織部が中

心となり、地元茨城県仏では実行委員会が準備をすすめている。本年も部会は四つに分かれ、それぞれのテーマに基づき討論を行なうが、青年部会はより充実させるため全国結集をうたい、全日仏青執行部と地元仏青と緊密

全日本仏教青年会(水倉嘉文理事長)では、再発足後の五十二年には埼玉大会

にあわせ全国結集を開催、翌五十三年にはWFB日本大会にWFBY記念結集と着実に努力を続けている。

「新文明の希求」に注目しよう

大会開催の趣旨

「二十一世紀における仏陀のメッセージ」というテーマを高く掲げ、昨年度が国において、第十二回世界仏教徒会議が開かれた。この会議において、われらは世界における仏教徒の地位と責務を自覚し、世界平和実現のために全仏教徒が結果して邁進することを誓いあった。いまや残された問題は、い

かにしてこの決意を具体化し実践するかである。今年「国際児童年」であり「ルンビニの年」でもある。我等は目標を明確に定め、次代を担う青少年の健全な育成と聖地ルンビニの復興に努力しなければならない。六月に行なわれた東京サミットで、世界各国の連帯と協調なくしては、世界平和と人類の繁栄はありえないことを知った。エネルギー問題一つを取り上げてこのことは明瞭である。我等

仏教徒は、無限の欲望を追求する物質文明がすでに限界に達し、精神的価値を重視する新たな文明が希求されている事実を目を向けるべきである。エネルギー節約を論ずる前に、我等は釈尊によって教えられた「欲望の限界」にこそ、思いをいたすべきであると思う。水戸は、わが国精神文化淵藪の地であるとともに、廃仏毀釈運動発祥の地でもある。茨城県仏教会は幾多の苦難をのりこえて前進している。伝統と進取のならび存する水戸に、全国の仏教徒が参集されんことを、

第二十二回全日本仏教徒会議において再発足以来、全日本仏教青年会は、実践を通じて力強い歩みが続けております。しかしながら、「一県一仏青の呼びかけ」にもかかわらず、いまだ未組織県が多く、

全日本仏教会 茨城県仏教会

これが大きな懸案となつていました。

こうした現況に鑑み、原点に帰つて問題を探るべく、「仏教青年の全国結集を討つろ——仏教青年の発展はいかにあるべきか」のテーマのもとに、宗派を超えた討議の場を設けました。

大法輪のもと、皆様の熱意あふれる討議により、名実ともに仏教青年の大団結が出来ますよう、水戸の地に御参集をお

待ちいたします。

記

日時 十月十五日 八時より受付

青年部会午後一時—三時

場所 水戸市民会館

なお、青年部会の懇親会を午後五時より水戸三の丸ホテルにて行います。

全日仏青理事長 水倉嘉文

青年部会実行委員長 岡部康善

姉妹仏教会の締結式

長岡市仏教会と鳴門仏教会

WFB地方大会のご縁

昨年の第十二回世界仏教徒会議日本大会は、本大会のあと十カ所で地方大会がもたれ、それぞれ海外代表と仏教親善を深めることができた。特に市仏が中心となつて開催された長岡と鳴門の両地方大会は、関係者の熱意と努力により、それぞれ檀信徒一千名を超える僧俗一体の大会として注目された。

このWFB地方大会をきっかけに、長岡市仏教会（中村啓識会長）と鳴門仏教会（安立清雄会長）が姉妹仏教会として相互交流を図るなど、互いに提携し一層発展すべく、その締結式が全仏の仲立ち

会は特に檀信徒運動には並々ならぬ努力をし、僧俗一体となつて活発に活動されている。WFB地方大会を契機に、この両仏教会が懇談され、連絡・提携し、仏教発展のため努力し、その活動を二層緊密にしていくなため姉妹仏教会として手をとり合つてはどうか、ということになり、それぞれ協議の結果、今日の締結式となりました」と述べた。

このあと「姉妹仏教会締結に関する条文」を田代部長が朗読、この条文宣誓書に中村、安立両代表が署名調印、万雷の拍手のうちにガッチリと握手を交した。つづいて長岡檀信徒会・池田忠蔵会長と鳴門仏教護持会・川内勝三郎副会長がそれぞれ喜びの挨拶をし無事締結式を終了し、全仏の安本国際文化局長の乾盃で祝慶に入り、お互いに現状の報告や、今後の計画などについて語りあった。

この姉妹仏教会の締結をステップとして、より他の仏教会の範とし活躍を期待するものである。

池田忠蔵会長（長岡市檀信徒会）「このたびの正式調印は、鳴門、長岡ともに檀信徒運動をすすめるにあつて非常に喜ばしいことでもあります。これを出発点として、各地の檀信徒会と次々に連絡し、互に長所を取り入れ全国の檀信徒が「仏仏のもと手をつないで」将来の日本に仏心の社会を実現したいです。」

【出席者】
長岡市仏教会 会長 中村 啓識
檀信徒部長 春日 浩三
事務局長 小林 秀徳

長岡市檀信徒会 長 池田 忠蔵

副会長 高木 照吉

鳴門仏教会 会長 安立 清雄

副会長 山内 一雅

副会長 浜川 信純

鳴門仏教護持会副会長 川内勝三郎

副会長 吉田 重一

全仏・竜山、安本、田代、中村、杜多

長岡市仏教会・鳴門仏教会

姉妹仏教会締結に関する条文

長岡市仏教会と鳴門仏教会、並びに鳴門仏教護持会、長岡市檀信徒会は、仏陀の和の精神を基調として、相互の緊密な連絡提携のもとに下記各条の活動を推進し、仏教文化の宣揚と世界平和の進展に寄与するため、ここに姉妹仏教会として署名捺印して締結する。

第一条 長岡市仏教会、鳴門仏教会（以下略各仏教会）、並びに鳴門仏教護持会、長岡市檀信徒会（以下略各檀信徒会）は、親睦をはかり、互に交流の機会をつくる。

第二条 各仏教会並びに各檀信徒会は互に提携し、仏教に関する研究、調査、実践をはかる。

第三条 各仏教会並びに各檀信徒会は、ここに姉妹仏教会として地域各種仏教諸団体へ活動の範として啓蒙に役立てる。

第四条 連絡については全日本仏教会を仲として、各仏教会に事務所を置き、連絡事務、一条より三条までの各活動を推進する。

昭和五十四年七月二日

夏につつどう

夏——老若男女ともに暑さをのがれ涼をもとめる。この夏休みを利用して、各宗派、あるいは寺、仏教などによって、仏教講座、修養道場など一般向、青少年向などの催しが年々盛んになってきている。衣食足り、生活が向上してきている今日、現代病ともいえる「心の病」が多くみられ、仏教を心の糧にしようとする人々が多くなってきており、さまざまな人たちが、仏教講座に学ぶ姿が目につく。今号は「夏に集う」と題して、全国各地で行なわれた催しをいくつか簡略に紹介してみたい。



四天王寺夏期大学

和宗四天王寺（出口常順管長）では、七月二十二日より二十五日まで、四天王寺本坊において、第十六回「四天王寺夏

四天王寺の夏期大学第四日目、林野講師による臨地講演

期大学」を開催。今回は「人間学としての仏教教学と信仰」のテーマのもとに、定員二百五十名のところ三百三十名が

各地の催し

参加、人間とは何か―生き甲斐とは、どう生きるのか、などを熱心に学んだ。

二十二日 南谷恵澄執事長の開講挨拶のあと、出口管長の「聖徳太子伝歴を中心とした太子信仰」や、間中定泉聖徳宗管長、堀内龍獅虎読売新聞論説委員などの講義が行なわれた。

二十三日 二日目は金治勇四天王寺勸学院講師、山田恵諦天台座主、田村芳朗東大教授の講義が行なわれた。

二十四日 奥田慈心四天王寺勸学長、大谷光昭西本願寺前門主、中村元東大名誉教授の講義のあと、閉講式が行なわれ参加者に修了証が授与された。

二十五日 聖徳太子ご遺跡霊場巡拝として四天王寺諸堂参拝が行なわれ、臨地講演として林野全孝京都府立大教授が講義した。

法隆寺夏期大学

聖徳宗総本山法隆寺（間中定泉管長）では、七月二十六日―二十九日まで、第二十九回「法隆寺夏期大学」を、法隆寺聖徳会館で開催、定員を上回る参加者は静かな斑鳩の里にて熱心にメモを走らせていた。

二十六日は、間中管長の「大乘相應の地」と、坂本太郎東大名誉教授の「聖徳

太子と天智天皇」の講演のあと映画を鑑賞、法隆寺諸堂を参拝した。

二十七日は、花山信勝東大名誉教授の「興隆三宝と聖徳太子」、倉田文作奈良国立博物館長の「仁王像」の講演。

二十八日は、大岡実日大教授の「印度建築史の研究手法」、若林隆光二松学舎大講師の「聖徳太子の周辺」の講演があり、両日とも午後には太安萬侶墓、中宮寺、法輪寺など近郊の参拝を行なった。

二十九日には京都方面の名刹を巡拝するなど暑さを忘れる夏期大学であった。

円覚寺夏期大学

臨濟宗円覚寺派（朝比奈宗源管長）の円覚寺では、第四十四回夏期講座を、充実した講師陣のもと、同寺大方丈にて七月二十一日より二十五日まで開催。各講師が次の講題で講演したが、内容にバラエティがあり、また参加者の中で円覚寺に宿泊した人たちは禅の修行も行なうなど終始熱心であった。

二十一日 「仏教とヒンドウ教」奈良康明駒大教授、「国際化時代と教育問題」福田信之筑波大副学長。

二十二日 「鎌倉武士の人間像」作家永井路子さん、「アジアの旅から」平山郁夫東芸大教授。

二十三日 「自然界における人間の位置」東京大名誉教授、「ロボット工学からの不思議な発見」森政弘東工大教授。

二十四日 「体制としての宗教と、信仰としての宗教」山本七平氏、「実事求

是「茅誠司元東大学長。二十五日「般若心経の心」松原泰道日月庵主菅、「社会と文化」みる日本の特質」作家深田祐介氏。

比叡山仏教文化講座

古い伝統をもつ比叡山の「比叡山仏教文化講座」は、七月二十七日―二十九日の日程で、比叡山大講堂を会場に開催され、参加者は涼しい山の上にて、豪華な各界を代表する講師陣の仏教文化の講演に耳をかたむけた。

講師としては、真言宗仁和寺派の立部瑞祐管長をはじめ、増田四郎元一橋大学長、柳田聖山京大教授、井上光貞東大名誉教授や、作家の永井路子氏、藤本義一氏、仏像彫刻の松久朋琳氏があたり、それぞれ分野で仏教を語り、参加者はさかんにメモをとっている姿が目についた。

一乗寺夏期大学講座

長野県安曇郡の一乗寺（日蓮宗）では毎年「夏期大学講座」を開講し、地域の仏教文化向上に力を尽し、現在では市をはじめ地域全体の盛り上げと協力によって千人を超える参加者がある。

今年も八月二十日から二十二日まで行なわれ、二十日には、元体操のオリンピック選手の小野喬氏、参議院議員の斉藤栄三郎氏が講演。二十一日は電々公社調査役の影山裕子氏、元南極越冬隊長の鳥

手にじゅずをかけて、こどもたちも熱心にテキストの唱和



川崎大師夏期講座

居鉄也氏。二十二日は身延山布教部長の岩間湛良師、講談の神田山陽氏という顔ぶれで非常に盛況であった。

真言宗智山派の大本山川崎大師年間寺（高橋隆天貫主）では、恒例の夏期講座を八月十九日―二十一日まで、同寺大本堂にて開催。本年度十二回目をむかえるこの講座は、一日目に高野一能智山派教育学部長の「豊かな心」、二日目は佐藤隆賢大正大教授の「お大師さまの教え」、三日目は近藤隆敬智山派弘教布教師による「二世安楽」の講演があり、連日熱心な

檀信徒が聴聞し盛況であった。

本門寺聞法の集い

日蓮宗大本山池上本門寺では、第十二回聞法の集いを、七月二十七日より二十九日までの二泊三日、同寺朗峰会館にて開催した。

講師には、紀野一義氏「法華経に生きる」、土屋政義氏「ほとけさまとの出会い」、石川康明師「まことのこころさし」日蓮聖人に導かれて、「大慈慈徳師」日蓮聖人の願行」等があたり、また布教部により唱題行や写経などが行われた。

参加者は、都内とはいえ騒音のない緑の中でそれぞれ修行を深めた。

仏光寺暁天講座

真言仏光寺派の仏光寺本廟では、八月一日―三日まで、同寺としては初めての試みである暁天講座を開催、早朝の六時半にもかわららず、法を求める参加者がつめかけ好評であった。

一日は、同派の川端光宣宗務総長が、二日は同派布教師の駒井昌一師がそれぞれ講演。三日日は照山田雄総務の指導で写経が行なわれた。なお今後より充実した内容で継続される。

日蓮宗の修養道場

日蓮宗では、特に地域の日蓮宗青年会が主催する「少年少女の修養道場」が盛

んで、自然の中で仏教による規則ある生活をし、夏休みに心と体をきたえようと夏休みを利用して開設される。

ほとんどの道場が、七月二十五日すぎから八月十日までの間に、三泊四日位で開かれ、カリキュラムは仏前作法、行儀作法、写経、釈尊伝、日蓮聖人伝、唱題行や、キャンプファイヤー、ゲーム大会など盛りだくさんの内容である。

本年はどの道場も百人前後の参加者で年々盛んになっている。対象は小・中学生であるが、高校生になった修了者がサブリーダーとして手伝うなど、小さな芽が花を咲かせようとしている。

曹洞宗の緑陰禅

曹洞宗の各地域寺院では、曹洞宗青年会が中心となって、緑陰禅を開催、夏休みの小・中学生などそれぞれ百人前後が参加し禅修行を行なった。

今年も、七月お盆や施餓鬼会が終ったあとの七月二十七日―三十一日頃に開設されたものが多く、それぞれ子供たちで賑わったが、この緑陰禅では参加費が非常に安いのが目につく。

しかし内容は、講師陣は教区長、布教師、大学教授、小学校教諭など幅広く、日程も禅修行を中心に、写経、法話などきびしいものであった。中でも坐禅と正座の足のいたさは苦しかったようであるが、この体験は将来かならず役に立つものである。

昭和54年9月1日

WF B大会の答礼に 日・タイ仏教親善の旅

ぜひ参加を
大谷会長も同行

昨年の十月、第十二回世界仏教徒会議が日本において開会されました。この大会の一周年を記念し、「日・タイ仏教交流の翼」(バンコク五日間)とする、仏教徒訪問団を募集しております。世界仏教徒連盟(WF B)本部事務局のありますタイ国バンコク市を訪れ、仏教親善を深めようとするもので、特にWF B本部を表敬訪問し、WF B会長のブーン殿下やサンヤ副会長(前首相)、タイ仏教徒代表等との懇談会も行なわれます。

またこの訪問団には全仏の大谷光真会長(浄土真宗本願寺派門主)も同行し、日本大会の答礼を行い、今後の課題についてもブーン会長等と懇談される。

今回の行程は、二十二日に成田を出発し、二十三日四日はタイ国の有名寺院であるエメラルド寺院、ねはん寺、大理石寺院、暁の寺、バクナム寺院などを巡拝してタイ仏教を視察する他、水上マーケット、アヌタヤ観光などがある。またホテルも一流で、全行程同一ホテルのため荷物の持ち運びなどの必要もなく、またバンコク市内だけなので移動が少なく

充実した旅行がたのしみ、お年寄りでも無理のない行程であるので、ぜひ積極的に参加してほしいと事務局で呼びかけている。

全仏・嶺南正浩事務総長「第十二回WF B日本大会は、二十一世紀における仏陀のメッセージをテーマに、盛況裡に開催され、早や一年が経過しました。

この大会の成果をふまえ、WF B本部事務局を訪れ、答礼と今後の課題などについて懇談する機会をもつよう計画をすすめておりましたが、機熟し、ここに仏教親善訪問団を派遣することとなりました。

短い期日ではありますが、バンコクならびに近郊の寺院を訪れると共に、WF B本部を訪問するという、他の旅行では味わえないこの旅に、お気軽にご参加下さるようお願いいたします。

問い合わせは、全仏国際部(港区芝公園四の七の十三、電四三七一九二七五)か、日本旅行五反田営業所(品川区西五反田一の三十二の十一、電四九二二九四〇)仏教交流の翼デスク。

WF B日本大会一周年記念

日・タイ仏教交流の翼

(バンコク5日間の旅)

■昭和54年10月22日～26日日

■旅行費用 ￥145,000

エメラルド寺院・ねはん寺・大理石寺院等参拝・水上マーケット・アヌタヤ観光・ナコンパトム視察などWF B本部訪問と懇談会
(宿泊はすべてハイヤットラマホテル(バンコク))

■お問合せお申込み(取扱旅行社)

日本旅行 五反田営業所

〒141 東京都品川区西五反田1-32-11

☎ 03-492-2940

■後援 全日本仏教会



第12回 日本仏教文化会議

「エネルギー」をテーマに29日開く

全日本仏教会と国際仏教交流センター（孝道教団）の共催による「日本仏教文化会議」は今年第十二回目をむかえる。

昨年の第十一回は、WFB大会の事前研究として開かれたが、過去「アジア開発と仏教」や「生命科学と仏教」、「人類の未来と仏教」などのテーマで熱心に討議されてきた。

今年も、現在もっとも関心の強いエネルギー問題について、「エネルギーとは何か」を仏教の立場から討議していただく。特に基調講演には、科学の立場から東大名誉教授の山内恭彦先生、仏教の立場で二松学舎大助教授の加藤純章先生をお願いし、議長の宮本正尊先生をはじめ

午後一時三〇分 討議

五時〇〇分 閉会式

来月三日に埼玉県

仏教徒大会ひらく

熊谷の報恩寺で

参加招請の各先生方より建設的な意見を聞く。なお、オブザーバーの参加も認められますので、必ず全日本仏教会、国際仏教交流センターに申し込みをして下さい。

第十二回日本仏教文化会議要項

テーマ 「エネルギーとは何か」

基調講演 山内恭彦（東大名誉教授）

加藤純章（二松学舎助教授）

期日 九月二十九日（土）

会場 東京グランドホテル

日程 午前九時三〇分 受付

十時〇〇分 開会式

十時三〇分 基調講演

くみられる。ガラスの入った茶ダンス

では読経中にうしろが見えてしまう。

①なんと若奥さんが替替えているのでは

ないですか。目の毒。②指を二本か

お盆棚経雑記

暑い暑い夏が今年も終ろうとしている。七月のお盆は涼しかったのに、八月の暑かったこと…汗びっしょりで棚経に行き、今年もまた色々ありました。

（茶ダンス）最近の家庭ではダンス等の上に仏壇を置くことが多

三本かとりしている。いやはやお布施の相談ですか。

（おひや）お酒のすぎな手伝いの学生が、棚経で「冷たいのと温かいのと

どちらにしますか」といわれて、「暑いからひやがいいです」、まじはよかったが、なんと普通の水。当然です。

（ゲタ）ラッシュの電車に乗る寸前にゲタが線路へポトリ。次の駅でピッコタンコのまま折返す。事務室にボツツと置いてあるゲタをみて、職員さんにゲタゲタと笑われた。

（ネコ）読経中に突然、仏壇の上からネコがヒラリ。いや 驚ろいた。

WFB日本 大会へ寄金

百万円 日蓮宗総本山 身延山久遠寺

教誨師功労者を推薦

日宗連理事会

日本宗教連盟の第四回理事会は、七月三十一日午後二時より、立正佼成会法輪閣で開かれた。

開会挨拶のあと、前回記録の承認が行なわれ、つづいて報告事項として諸報告がなされた。

次に審議事項として、①世界宗教者倫理会議について（協賛依頼の件）、②宗教教誨事業功労者の推薦についての案件を審議した。①については継続審議となり、②については各地区より九名の推薦が決定した。仏教関係者は、今井亮夫師（東京・大谷派）、若原慧明師（名古屋・高田派）、小川秀邦師（福岡・曹洞）、山辺芳雄師（札幌・曹洞）の四師。全仏より幹事の馬場道男庶務部長と、オブザーバーとして服部光順庶務主事が出席。

文化庁宗務課と懇談

去る八月二十一日、東京グランドホテルにおいて、文化庁宗務課と全仏の懇談会を開催し、役員定数改正、一般消費税、幼稚園、保育問題等について話し合った。また、今後定期的に年一回程度このような会合を開催することとなった。

比叡山高校が健闘

甲子園で初のベスト8

第六十一回全国高等学校野球選手権大



全仏口ピ

昭和54年9月1日

会は、甲子園球場に連日熱戦を展開したが、今回は比叡山高校が見事に滋賀県の代表として出場（夏は二度目）し、強い精神力で三回戦まで強豪を続々と破りベスト8へ進出、準々決勝では浪商に無念の敗退となったが、その健闘ぶりは「荒法師」とたたえられた。

他にも甲子園めざして仏教系の学校が全国各地で健闘をみせたが、いずれも涙をのむ結果となった。
特に残念だったのが南北北海道の空蘭大谷、広島の崇徳、佐賀の佐賀竜谷でいずれも準決勝で敗退した。また北北海道でも旭川竜谷が準々決勝で敗れるなどあと一步のところでの惜敗がくやまれる。

◆ 掲 ◆ 示 ◆ 板 ◆

全日仏青 全日本仏教青年会では役員改選の結果、左記の通り決定した。
理事長・永倉嘉文、副理事長・永島竜弘、佐藤泰博、事務局長・都築哲信（事務局）横浜市西区南郷井沢九勸行寺
聖観音宗 聖観音宗・浅草寺の宗務総長・執事長壬生台舜師の辞任に伴い、新しく大森亮雅師が選出された。
京都府仏 任期満了に伴う役員改選を行い次のように決定した。

会長・伴義台、副会長・葉上照澄、横井鶴州、理事長・小林忍戒、事務局長・宮城泰年。
マレーシア仏教会 クアラルンプールに仏教会館が落成し、九月二十九日から三日間落慶記念式典が行なわれる。全仏

昭和五十四年九月一日発行
九月号 第二五一号

発行人 齋藤 正浩
編集人 安本 利正

発行所 財団法人 全日本仏教会

全日本仏教会

全日本仏教会

東京都港区芝公園四一七一一三
電話〇三(四三七)九二七五

にも招請状が届いており出席の予定。

孝道教団 故岡野正道大統理の第2号忌法要が、七月二十二日、孝道山にて山田恵諦天台座主大導師のもと、来賓各位多数が参列し莊厳に執行された。全仏より安本局長が参列。

全仏ブロック会議 全仏の関東申信越静アロック会議は、茨城県仏の担当により、九月四―五日、水戸市の「三の丸ホテル」にて開催される。
WCRP 八月二十九日より九月七日まで、米国プリンストンにて開かれる第三回世界宗教者平和会議(WCRP)に全仏・町田宗夫理事長が出席する。

哀 悼

山田 霊林師(全仏元副会長)

七月十五日、老衰のため永平寺東京別院にて遷化。九十歳。二十一日密葬が行なわれた。本葬未定。

駒沢大学教授、学監を歴任、また同大総長をつとめた。昭和五十年―五十二年に永平寺貫首、曹洞宗管長につかれ、全仏副会長にも就任された。「正法眼蔵現代語訳」など著書多数がある。

清水谷 恭順師(全仏元副会長)

八月八日、老衰に肝障害を併発し浅草寺本坊仏法院にて遷化。八十八歳。密葬は十日、本葬は九月二十五日に仏法院にて執行される。
長野善光寺大勧進を経て、昭和二十四

年浅草寺貫首。戦災で失なった浅草寺の復興に全力をそそぐ。大正大学教授、全日本仏教会副会長、文部省宗教法人審議会委員等を歴任。

事務総局録事(七・八月)

- (七月)
- 二日 長岡・鳴門仏教会姉妹締結式
- 古屋道雄師感謝の集い出席
- 六日 鎮仰会都民お盆まつり出席
- 九日 茨城大会準備会 局内会議
- タルシヤン氏会談
- 十九日 茨城大会打ち合せ(水戸)
- 二十一日 局内会議
- 二十二日 孝道山一周忌参列
- 三十一日 日宗連理事會
- (八月)
- 二日 茨城大会準備会
- 三日 局内会議
- 八日 身延山へ
- 十八日 文化専門委員会
- 二十日 局内会議
- ス大統領歓迎準備会
- 二十一日 文化庁と会議

おねがい

全仏文化部では機関紙「全仏」の創刊号、二号を探しております。昭和二十九年の十月か十一月の発行と思われるので(当時は全仏通信)ご協力をお願い申し上げます。

昭和55年版

「全仏手帳」

申込み受付中

全仏総務局では、左記要領にて「全仏手帳」を発行します。部数に限りがございますので、御注文はお早めに。

内容 三掃依文、四弘誓願、宗門聖日、加盟団体役員住所録、忌日早見表、その他
サイズ 9×14cm
定価 五〇〇円(送料実費)
申込先 東京都港区芝公園四一七一三 全仏総務局
「全仏手帳係」宛

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 浜田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965